

## 7. 研究所関係資料

### 1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001（平成13）年4月1日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。その前身である東京国立文化財研究所は、1952（昭和27）年4月1日に発足し、その母体となったものは、昭和5年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924（大正13）年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出損した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鏝二郎及び東京美術学校校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

### 2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年12月25日	前期の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和2年2月1日 同年10月28日	美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。
昭和3年9月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和4年5月29日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和5年6月28日 同年10月17日	勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行了た。
昭和7年1月1日 同年4月18日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。

期 日	事 項
昭和7年5月26日	帝国美術院はこの申出を受理した。
昭和9年10月18日	明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和10年1月28日	毎年10月18日を開所記念日と定めた。
同年4月	鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。
同年6月1日	『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。
昭和12年6月24日	勅令第148号により美術研究所官制が公布された。
同年11月29日	研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和13年2月12日	木造、平屋建、延面積97㎡の写真室1棟が竣工した。
昭和19年8月10日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和20年5月28日	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町1丁目日本間家倉庫3棟に疎開した。
同年7～8月	酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和21年3月29日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。
同年4月4日	酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。
同年4月16日	東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和22年5月3日	美美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。 国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和23年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66㎡）に設けた。
昭和25年8月29日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和26年1月31日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和27年4月1日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の3部1室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。
同年7月1日	芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室2室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和28年4月26日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫132㎡を改造のうえ移転した。
昭和29年7月1日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和32年3月22日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。
昭和32年11月30日	従来の2階建書庫の上にさらに1階を増築3階建とし、増築分延面積71㎡が竣工した。

期 日	事 項
昭和34年 4 月30日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和36年 9 月16日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和37年 3 月31日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2階建、延面積663㎡の建物1棟が竣工した。
同年 7 月 1 日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。
同年 7 月20日	芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和43年 6 月15日	文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
昭和44年 8 月23日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延1,950.41㎡）の起工式が行われた。
昭和45年 3 月25日	前記の別館が竣工したので、同年5月26日竣工式が行われた。芸能部は、別館3階に移転した。
同年 5 月 8 日	保存科学部は別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を完了した。
同年 6 月29日	保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が完了した。
同年11月 2 日	所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12番53号」から「13番27号」に変更された。
昭和46年 4 月 1 日	保存科学部庁舎及び別館の敷地2,658㎡を東京国立博物館から所管換された。
昭和48年 4 月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年 4 月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年 3 月20日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積569.95㎡の建物が竣工した。
同年 4 月 5 日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年 6 月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成 2 年10月 1 日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成 5 年 4 月 1 日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成 7 年 4 月 1 日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。
平成 7 年 4 月 1 日	東京藝術大学と「東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。
平成 9 年10月 1 日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。

期 日	事 項
平成12年 2月 4日	新営庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上 4 階地下 1 階、延面積10,557. 99㎡（建築面積2,258. 48㎡）が竣工した。
同年 2月21日	新営庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。
同年 3月 6日	新営庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。
同年 3月22日	建設省関東地方建設局営繕部より、新営庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新営庁舎関係の工事が完了した。
同年 5月11日	新営庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了。 この式典の挙行に際し、毎年 5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年 3月29日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の 2 室になった。
同年 4月 1日	東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化に伴い、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官一情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの 1 センター 5 部 1 協力調整官一情報調整室となった。
平成15年 9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事を行った。
平成18年 4月 1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官一情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年 4月 1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合に伴い、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3 部 2 センターとなった。
平成22年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。

### 3. 歴代所長（昭和5年～平成25年度）

役 職	氏 名	期 間
主事	正木直彦	昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24
主事	矢代幸雄	昭和 6.11.25～昭和10. 5.31
所長事務取扱	和田英作	昭和10. 6. 1～昭和11. 6.21
所長	矢代幸雄	昭和11. 6.22～昭和17. 6.28
所長事務取扱	田中豊蔵	昭和17. 6.29～昭和22. 8.15
所長	田中豊蔵	昭和22. 8.16～昭和23. 5.10
所長代理	福山敏男	昭和23. 5.11～昭和24. 8.30
所長	松本栄一	昭和24. 8.31～昭和27. 3.31
所長事務代理	矢代幸雄	昭和27. 4. 1～昭和28.10.31
所長	田中一松	昭和28.11. 1～昭和40. 3.31
所長	関野克	昭和40. 4. 1～昭和53. 4. 1
所長	伊藤延男	昭和53. 4. 1～昭和62. 3.31
所長	濱田隆	昭和62. 4. 1～平成 3. 3.31
所長	西川杏太郎	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31
所長	渡邊明義	平成 8. 4. 1～平成13. 3.31
（独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行）		
所長	渡邊明義	平成13. 4. 1～平成16. 3.31
所長	鈴木規夫	平成16. 4. 1～平成19. 3.31
（独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行）		
所長	鈴木規夫	平成19. 4. 1～平成22. 3.31
所長	亀井伸雄	平成22. 4. 1～現在

## 4. 名誉研究員

氏 名	退 職 時 官 職 名	在 所 期 間	名誉研究員 発令年月日
登石健三	保存科学部長	昭和27.10.1～昭和50.4.1	昭和53.10.18
上野アキ	情報資料部文献資料研究室長	昭和17.11.3～昭和59.4.1	昭和59.10.18
江上綏	情報資料部主任研究官	昭和38.5.18～昭和59.3.31	昭和59.10.18
猪川和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和22.6.27～昭和60.3.31	昭和60.10.18
伊藤延男	所長	昭和53.4.1～昭和62.3.31	昭和62.10.18
三隅治雄	芸能部長	昭和27.10.1～昭和63.3.31	昭和63.10.18
見城敏子	保存科学部物理研究室長	昭和34.4.1～平成元.3.31	平成元.10.18
濱田隆	所長	昭和62.4.1～平成3.3.31	平成3.10.18
関口正之	美術部長	昭和42.2.1～平成3.3.31	平成3.10.18
佐藤道子	芸能部長	昭和34.4.1～平成4.3.31	平成4.10.18
馬淵久夫	保存科学部長	昭和50.10.1～平成4.3.31	平成4.10.18
新井英夫	保存科学部長	昭和45.9.1～平成5.3.31	平成5.4.1
西川杏太郎	所長	平成3.4.1～平成8.3.31	平成8.4.1
三輪英夫	美術部第二研究室長	昭和53.8.1～平成8.3.31	平成8.4.1
蒲生郷昭	芸能部長	昭和56.4.1～平成10.3.31	平成10.4.1
中里壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和39.4.1～平成10.3.31	平成10.4.1
宮本長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成6.4.1～平成11.3.31	平成11.4.1
羽田昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和51.4.1～平成12.3.31	平成12.4.1
中村茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和39.7.1～平成13.3.31	平成13.4.1
増田勝彦	修復技術部長	昭和48.8.1～平成13.3.31	平成13.4.1
米倉迪夫	情報資料部長	昭和50.9.1～平成13.3.31	平成13.4.1
星野紘	芸能部長	平成10.4.1～平成14.3.31	平成14.4.1
平尾良光	保存科学部化学研究室長	昭和62.4.1～平成15.3.31	平成15.4.1
井手誠之輔	協力調整官一情報調整室長	昭和62.7.1～平成16.3.29	平成16.3.30
斎藤英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成11.4.1～平成16.3.30	平成16.3.31
西浦忠輝	保存科学部長	昭和50.7.1～平成16.3.31	平成16.4.1
渡邊明義	所長	平成8.4.1～平成16.3.31	平成16.4.6
鈴木廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和54.9.1～平成17.11.30	平成17.12.1
青木繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和49.7.1～平成19.3.31	平成19.3.31
三浦定俊	副所長	昭和48.8.1～平成20.3.31	平成20.3.31
鎌倉恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和63.4.1～平成19.3.31	平成20.3.31
鈴木規夫	所長	平成16.4.1～平成22.3.31	平成22.4.1
中野照男	副所長	平成4.4.1～平成23.3.31	平成23.4.1
清水真一	文化遺産国際協力センター長	平成19.4.1～平成23.3.31	平成23.4.1

## 5. 2013（平成25）年度予算等

### (1) 予 算

（単位：千円）

事 項	予 算 額
一般管理費	61,372
調査研究事業費	205,700
情報公開事業費	47,297
研修事業費	2,540
国際研究協力事業費	213,809
展示出版事業費	28,439
合 計	559,157

### (2) 科学研究費助成事業交付一覧

（単位：千円）

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究（B） （一般）	文化財修復材料の劣化と文化財に及ぼす影響に関する基礎的研究	早川典子	1,300
”	敦煌芸術の科学的復原研究—壁画材料の劣化メカニズムの解明によるアプローチ	岡田健	2,860
”	文化財展示収蔵施設の実状に即したカビ調査技術と制御に関する研究	木川りか	4,420
”	近江の古代中世彫像の基礎的調査・研究—基礎データと画像蓄積のために—	津田徹英	6,240
基盤研究（B） （海外学術調査）	西スマトラ州パダン歴史地区における文化遺産復興に関する総合的研究	亀井伸雄	6,370
”	考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究	友田正彦	4,940
基盤研究（C） （一般）	建築文化財における伝統的な塗装彩色材料の再評価と劣化防止に関する研究	北野信彦	1,170
”	政治的危機に瀕する『越境文化遺産』の保護と平和活用—国際政治・公共政策研究の貢献	原本知実	1,170
”	インド・アジャンター石窟壁画消失メカニズムの解明に向けた微生物生態学的調査	佐藤嘉則	1,300
基盤研究（C） （一般）	中世・近世日本絵画における白色顔料の利用に関する科学的調査研究	早川泰弘	1,560
”	螺鈿のアジア史—技術史と交流史を中心に—	小林公治	1,430

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
挑戦的萌芽研究	古墳壁画表面における含水量の非接触測定システムの開発	犬塚将英	1,300
若手研究 (B)	染織技法の分業化の展開に関する基礎的研究—技法書・絵画資料・実作品の分析を通して	菊池理予	1,170
"	寺院造営組織からみた平安前期彫刻の研究	皿井舞	780
"	自然共生型博物館における野外由来微生物の浮遊真菌濃度予測に関する研究	間渕創	2,080
"	文化財保護法の成立過程に関する研究—日本における文化財概念と史跡名勝天然記念物—	境野飛鳥	1,300
"	絵画修復と絵画制作に使用される膠の物性に関する基礎的研究	楠京子	650
"	黒海周辺地域における中世組積造建築遺産の系譜と保存継承に関する研究	鈴木環	1,430
"	GISを用いた古代クメール都市発展史の復元的研究	佐藤桂	1,430
"	古代メソポタミアの葬送儀礼に関する多角的研究	久米正吾	910
特別研究員奨励費	歴史的建造物におけるモザイクの現場保存とその対策	佐々木淑美	1,200
"	文化財の生物劣化モニタリング—超微量試料中のカビ、キノコ由来遺伝子の定性・定量—	和田朋子	1,200
"	彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構	貴田啓子	1,100

### (3) 受託調査研究一覧

(単位：千円)

研究課題	研究代表者	依頼元	受入額
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	川野邊渉	文化庁	43,674
文化遺産国際協力拠点交流事業（アルメニアおよびコーカサス諸国等における文化遺産保護に関する拠点交流事業）	川野邊渉	文化庁	11,999
文化遺産国際協力拠点交流事業（キルギス共和国及び中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業）	川野邊渉	文化庁	12,000
文化遺産国際協力拠点交流事業（ブータン王国の伝統的建造物保存に関する拠点交流事業）	川野邊渉	文化庁	7,545
文化遺産国際協力拠点交流事業（ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業）	川野邊渉	文化庁	12,000
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	岡田健	文化庁	44,286
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	岡田健	文化庁	34,514
第37回世界遺産委員会における審議資産概要一覧表の作成	川野邊渉	文化庁	653

研究課題	研究代表者	依頼元	受入額
第37回世界遺産委員会審議調査研究事業	川野邊渉	文化庁	2,999
装飾古墳の保存に関する調査研究事業	岡田健	文化庁	11,999
文化財（美術工芸品）等緊急保全活動・現況調査事業	岡田健	文化庁	3,411
文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）（ツバル・キリバス・フィジーの文化遺産保護に関する技術的調査）	川野邊渉	文化庁	4,150
第38回世界遺産委員会における審議資産概要一覧表の作成	川野邊渉	文化庁	417
ユネスコ／日本信託基金 シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業	山内和也	ユネスコ・アルマティ事務所	US\$29,000
ユネスコ／日本信託基金 バーミヤーン遺跡保存事業	山内和也	ユネスコ・世界遺産センター	US\$63,164
ユネスコ／日本信託基金 タンロン・ハノイ文化遺産群の保存事業	友田正彦	ユネスコ・ハノイ事務所	US\$68,330
ユネスコ／日本信託基金 シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業	山内和也	ユネスコ・タシケント事務所	US\$16,655
エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）にかかる国内支援業務	山内和也	独立行政法人国際協力機構（JICA）	26,892
小石川後楽園得仁堂収蔵物の保存修復科学的な調査	北野信彦	東京都	600
水浸した日本画の修復方法に関する調査研究	岡田健	龍蔵院（茨城県鹿嶋市）	300
絵金屏風の保存修理に関する調査研究	岡田健	熊本市美術文化振興財団	198
関西大学博物館蔵および考古学研究室保管奈良県高市郡明日香村牽牛子塚古墳出土夾紵棺一括の修理	北野信彦	関西大学	1,365
松平定信《細写 物語歌書『源氏物語』》の収蔵箱の保存に関する調査研究	佐野千絵	桑名市博物館	539
ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	川野邊渉	ラチャプラディット寺院	300

#### (4) 共同研究等一覧

(単位：千円)

研究課題	相手先	担当部局	金額	区分
京都市内（平安京跡）出土文化財の保存修復科学的な調査研究	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	保存修復科学センター	300	受入
航空資料保存の研究	一般財団法人日本航空協会	保存修復科学センター	400	受入
伝山内盛豊所用当世具足の文化財科学的調査	一宮市	保存修復科学センター	500	受入

研 究 課 題	相手先	担当部局	金 額	区 分
鎌倉市内（大倉幕府周辺遺跡群）出土資料の保存修復科学的な調査研究	鎌倉市	保存修復科学センター	300	受入

#### (5) 助成金一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	助成元	担当部局	受入額
イスラーム時代のフルブック都城址出土の壁画断片の保存修復	公益財団法人住友財団	文化遺産国際協力センター	1,000
文化財の保存と修復に関する国際研究集会	公益財団法人ポーラ美術振興財団	企画情報部	1,200
古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	保存修復科学センター	500
外国人研究者招致（中国文化遺産研究院 副研究員）	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	保存修復科学センター	700
名所絵によるアルメニアと日本の文化交流	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	文化遺産国際協力センター	500
第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「かたち再考」	公益財団法人東芝国際交流財団	企画情報部	600
出土漆器からみた桃山文化期における漆文化の解明に関する調査研究	公益財団法人高梨学術奨励基金	保存修復科学センター	300

#### (6) 寄付金受入一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	寄付者	担当部局	受入額
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	企画情報部	1,000
東京文化財研究所における研究成果の公表（出版事業）	東京美術商協同組合	企画情報部	1,000

年度内主要事業一覧

期 日	事 業 名
25.4.17	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所調査研究等部会（東京文化財研究所）
25.5.22	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会（東京国立博物館）
25.6.5	スタンレー・アベ氏講演会
25.7.3-5, 8-12	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ「日本の紙本・絹本文化財の保存修復」（ベルリン国立博物館アジア美術館）
25.7.8	文部科学省独立行政法人評価委員会国立文化財機構部会（東京国立博物館）
25.7.8-19	博物館・美術館等保存担当学芸員研修
25.8.26-9.13	国際研修「紙の保存と修復」
25.9.5	第13回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の新たな担い手—多様化するニーズへの挑戦—」
25.9.26	第7回 文化財における伝統技術及び材料に関する研究会「文化財建造物における木彫彩色の保存・修理・資料活用」
25.10.4-5	第47回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」
25.10.5	第8回公開学術講座「ニット—長時間レコード—昭和初期上方落語の口演記録—」
25.10.26	世界遺産シンポジウム「世界遺産の未来—文化遺産の保護と日本の国際協力」
25.10.31	シンポジウム「シリア復興と文化遺産」
25.11.14-29	在外日本古美術品保存修復協力事業における漆工品の保存と修復に関するワークショップ（ケルン東洋美術館）
25.11.15	第7回無形民俗文化財研究協議会「わざを伝える—伝統とその活用」
25.11.22	第27回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「近代テキスタイルの保存と修復」
25.12.11-12	第18回資料保存地域研修（山梨県立博物館）
26.1.10-12	第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 「かたち」再考 —開かれた語りのために—
26.1.27	「文化財の保存環境」に関する研究会—濃度予測と空気環境浄化技術の評価—
26.2.6-7	第19回資料保存地域研修（大分県消費生活・男女共同参画プラザ）
26.2.12	「文化財の放射線対策に関する研究会」
26.2.18	文化遺産国際協力センター研究会「ミャンマーにおける文化遺産保護の現状と課題」
26.2.25	研究会「アート・アーカイヴの諸相」
26.3.5	第2回無形文化遺産情報ネットワーク協議会
26.3.7	文化遺産国際協力コンソーシアム第14回研究会「文化遺産保護の国際動向」